

8月16日 年間第 20 主日

## まことの食べ物

ヨハネによる福音書 6 章 51～58 節

<sup>51</sup>「わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きかすためのわたしの肉のことである。」

<sup>52</sup>それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。<sup>53</sup>イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。<sup>54</sup>わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。<sup>55</sup>わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。<sup>56</sup>わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。<sup>57</sup>生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。<sup>58</sup>これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

他の朗読：箴言 9:1～6 詩編 34:2,3,10～15 エフェソ 5:15～20

### Lectio …読む

イエスは「命のパン」であることについての教えを続けます。群衆は憤慨しました。人々はただ文字通りに聴くだけで、霊的な意味深さまで考えようとはしませんでした。彼らはただ、この考えを受け入れることが出来なかったのです。

一方で、この表現は私たちの理解を助けます。イエスの体を食べるということは、イエスと彼の救いのメッセージを私たちが受け入れ、自分のものにしたいという私たちの願いを表しています。

別の意味では、秘跡的なことを表しています。イエスの言葉はパンへと変化し、私たちが食べることができるようになります。私たちは聖書において、また聖体の形でイエスに出会うのです。ですから、みことばの形であれ聖体であれ、イエスを食べる人は誰でもイエスの中に生き、イエスはその人の中に生きるのです。

イエスの言葉を受け入れ、イエスの体を食べることで築かれる、弟子たちとの深い関係についてイエスは語ります。その関係は御子イエスと、イエスを世に遣わした御父との関係に似ています。

これはキリスト者の命の神秘です。単に倫理的に正しく生きる、というだけの問題ではなく、恵みと関係性が極めて重要です。命は父と子と聖霊との深い結びつきの中で生きられるべきものです。このようにして私たちは三位一体の命を世に映し出すのです。恒常的に彼らと会話することによって、また彼らの会話から何かを聞く恵みによって、私たちは三位一体のペルソナの性質とそれぞれが大切にしているものを共有することが出来るのです。

### Meditatio …黙想する

あなたは教会が「聖体の秘跡」と呼ぶものに与っていますか。それはあなた自身の生活にどのような影響を与えていますか。イエスの御体と御血について、黙想しようとしていますか。1コリント 15 章 35～42 節を読んでみましょう。

イエスがあなたの中で生きること、そしてあなたがキリストの中で生きることの意味を考えてみましょう。このことはあなたの考えと行動にどのような影響を与えているのでしょうか。

## Oratio …祈る

詩編 34 編に戻りましょう。賛美が続きますが、今週は神を礼拝することに焦点をあてましょう。詩編作者は、物質的なものと長寿を求めている人々と、神を礼拝する人々とを比較して語ります。このみことばを、あなた自身の神への賛美の出発点としてみましょう。神を礼拝することについての節に来たら、時間を取って、そのこととあなた自身の生活様式について神があなたに語りかけようとするなら、耳を傾けてみましょう。

## Contemplatio …観想する

今日の典礼を貫いているのは知恵、つまり神の仕方で物事を見るように学ぶことです。箴言 9 章 1～6 節は、知恵を人にみだて、知恵が用意したものを食べて飲むように私たちを招いています。

エフェソ 5 章 15～20 節は賢くあることのテーマを続け、そして非常に実践的な助言を与えてくれます。私たちは聖霊で満たされ、神が私たちに望まれることを見つけ出していかなければならないのです。